

中日本カプセル (大垣市)

安全品質守る「選球眼」

記者が突撃!!
工場探検隊



宝石のように輝くソフトカプセル。現代人の健康を支えている

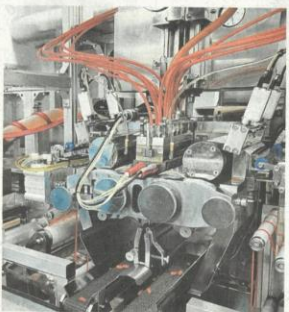
宝石のようにキラキラと輝くカプセルたち。美容、健康、ダイエット…。中日本カプセルは、現代人の暮らしを支えるサプリメントや健康食品を製造する。高

「1時間に4万球」資格者が最終検査

い技術力を有し、内容物や用途に合わせて多様な機能を持つカプセルに仕上げ、安定した品質を提供している。相手先ブランドにも生

客を含めれば取引先は約300社に上る。生産の拠点は本社の第1、第3工場。2019年に完成した最新の第3工場では、主力のソフトカプセルを生産している。

ソフトカプセル本体はゼラチンから作る。固まらないうち、ヒーターで温めながらゼラチンの皮膜液を充填機に送り、ドラムで停りしてシート状に延ばす。それを金型に送り、2枚のシートの間内容液を挟み込むように注入し、カプセルを成形する。カプセルを切り取った残りのゼラチン皮膜は廃棄せず液体やチップ状に加工して肥料メーカーに納入している。



ゼラチンシートに内容液を充填させる機械。シートの残りも有効活用が進む



1時間に4万球を見る「選球」社内でも有資格者しか許されていない作業だ。いずれも大垣市荒尾町

ソフトカプセルはゼラチンから作る。固まらないうち、ヒーターで温めながらゼラチンの皮膜液を充填機に送り、ドラムで停りしてシート状に延ばす。それを金型に送り、2枚のシートの間内容液を挟み込むように注入し、カプセルを成形する。カプセルを切り取った残りのゼラチン皮膜は廃棄せず液体やチップ状に加工して肥料メーカーに納入している。充填後は乾燥工程へ送る。約8分の乾燥機の中をぐるぐる約2時間半転がす。さらに2、3日かけて行のが「静置」だ。乾燥と同時に、万が一の内容液の「液漏れ」を発見するための重要なひと手間。人の目でも一つ一つ検品し、包装工程へ送る。第2工場ではハードカプセル。原料の混合に始まるのは同じだ。多い時は30種類もの原料を適切な分量で混ぜ合わせる。各工程は、異なる原料が混入しないよう1部屋に1台ずつ機械を置く「ワンルーム・ワンマシン」で統一。ある製品の生産を終えると機械を細かく分解、洗浄する。2回、3回と洗う日もある。手間と時間がかかるが、少量多品種生産という同社の強みを支える作業でもある。



岐阜新聞Webに動画

【工場概要】1996年創業。ソフトカプセル、ハードカプセルなどの健康食品の受託製造と各種包装を手がける。2019年に第3工場の稼働を開始し、現在は本社工場第1、第3で製造、養老工場で包装を担う。従業員数約170人。グループ会社に、高齢者介護施設などの運営会社ライフ・サポートがある。従業員約80人。大垣市荒尾町。

ぎふ
経済

(宮本寛)